

春簾雨窓（頼鴨厓）

春は 自ら 往来して 人は 送迎す

愛憎 何事ぞ 陰晴を 惜しむ

花を 落すの 雨は 是れ 花を 催すの 雨

一様の 檐声 前後の 情

春自往來人送迎 愛憎何事惜陰晴  
落花雨是催花雨 一樣檐聲前後情

解説 簾外の春雨をながめ、のきばの雨だれの音を聞きながら、その感想を述べた詩。

語釈 ※愛憎Ⅱ天氣だと喜び、雨になるとにくむ。

※惜陰晴Ⅱ花を落とす雨を残念に思つてにくむ。

※権声Ⅱ軒に滴るあまだれの音。※前後情Ⅱ花の咲く前と、咲いた後の気持。

通釈 春は自然にやってきて、自然に去ってゆく。人はこの去来を送り迎えすれば良い訳であるが、中々にそうはゆかぬもののようである。何も雨が降ったから花も台なしだと思ひ、晴れたから花が見られると、一々憎んだり喜んだりすることはないのである。花を散らす雨は、つまり花の咲くのをうながした雨、同じ雨なのである。同じこの雨だれの音も花の咲く前と咲いた後では聞く者に愛憎両様の気持を起こさせることである。